

topics

組合員に
期待される人材に

01

4月7日、本所大会議室にて入組2年目までの職員を対象に新人職員研修が行われ、6名の職員が参加した。

J A青森中央会経営対策部教育研修課の一戸誠さんが講師となり組合員への基礎的な対応の仕方やJ A職員に期待する事などを話した。

参加した職員と一戸講師が対話しながら研修が進められ、「今回の研修で学んだ事を業務で活かしていきたい。」と参加者は意気込んでいた。



一戸講師と対話しながら学ぶ職員等

topics

耕種的防除で
黒星病抑制

02

4月8日、中南地域農政局地域農林水産部が黒滝地区の田沢誠園にて開発中の落葉収集機による黒星病の耕種的防除の実演会を行った。

実演では㈱ORECの女性社員が収集機を牽引した乗用草刈機を操作し、女性でも簡単に落葉の収集・排出が出来る事を実証した。

同農政局地域農林水産部の熊谷泰治次長は「黒星病の防除は薬剤だけに頼らずに耕種的防除の普及にも期待したい。」と話していた。



軽快に園地の落葉を収集する女性社員

topics

青年部から
農業に改革を

03

4月9日、青森県農協青年部協議会の通常総会がアップルパレス青森にて行われた。当総会は全議案が無事承認されたほか、役員改選が行われ、当J A青年部の成田祐介副部長（紙漉沢）が役員に選出された。

成田副部長は「青森県の農業をこれからも発展させるために、盟友の声を国に発信していきたいと思えますのでよろしくお願ひします。」とこれからの取組に意気込んでいた。



役員としての決意表明をする成田副部長（写真中央）

topics

ライスセンター
更新に係る説明会

04

4月20日、水稻生産者を対象にライスセンター更新説明会を本所大会議室にて行った。

昭和50年に建設されたライスセンターの老朽化と修繕費がかさんでいる事から、大場組合長は更新の概要や今後のスケジュールを説明し、理解を求めていた。

更新は5月20日の臨時総会にて正式決定する予定である。



大場組合長の説明を聞く生産者



ゆっくり散布することを心掛ける生産者



2年連続の受賞に喜ぶ佐藤担当（写真中央）



当ハウスでの栽培管理について話しあう関係者ら



1花そうずつ確認する担当職員

topics

各地で薬剤散布開始

05

4月16日、令和3年度第一回目の薬剤散布が管内各地で行われた。今年には昨年以上に展葉日が早く経過し、同日の薬剤散布に向けて急ピッチで準備が進められていた。また、リンゴハダニの多発が懸念される為、初発を抑えようと丁寧な散布が行われていた。

これからの薬剤散布も適期適量、無事故で終えるように呼び掛けていきたい。

topics

2年連続の受賞に輝く

06

4月26日、令和2年度スマイルサポーター優績顕彰が本所にて行われ、金融共済課の佐藤担当が2年連続で1位を獲得した。

スマイルサポーターとして窓口推進で優秀な成績を残した佐藤担当は「去年の受賞がお客様の信頼の獲得に繋がったのではないかと感じている。これからも窓口で多くの安心と信頼を提供していきたい。」とこれからの業務に意気込んでいる。

topics

全量一等米出荷を目指す

07

中南地域県民局地域農林水産部は、4月30日にJA相馬村育苗ハウスにて「青天の霹靂」プロジェクトチームの第一回連絡会議を行った。

当会議には関係者15名が訪れ、昨年の出荷基準達成率が過去最低であった要因について話し合われ、全量出荷基準達成の為にこれからの栽培管理などを入念に確認し合っていた。

topics

凍霜害の被害調査行う

08

5月6日、農業振興課では4月上旬から気温の低下により凍霜害が懸念された事から、管内3カ所で王林の花の凍霜害調査を行った。

同調査は南北10花そつずつ調査し、全部で60花そつを調査した。

調査から胚が黒くなっているものやめしべが短いもの等の異常が確認されたものが見られたため、今後は実止まりや果形を確認するよう指導していく。